

2023年9月11日 発行
第3号

工務部会
こうむ
NEWS

JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
工務部会
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
代々木総合事務所5階
NTT 03-5315-0941 JR 058-4112
発行人 杉本博輝 発行 編集委員会

第35回定期委員会で特別決議を採択！

安全文化と安全哲学の再構築に対する本部工務部会 特別決議(案)

2023年6月16日1時42分頃、内房線 上総湊～竹岡駅間において、高圧配電線の引下線取替作業中に作業員が感電受傷し、命を落とす痛ましい事故を発生させてしまった。JR東日本の安全・安定輸送を遂行するため、「施工のプロ」として、設備の保守作業に尽力していたにも関わらず、お亡くなりになったご本人、ご家族の皆さまにご冥福をお祈りすると共に謹んでお悔やみ申し上げます。

本部工務部会は、事故発生2日後の6月18日と7月4日の2回、千葉地本工務部会と共に原因究明委員会を開催してきました。会社は警察が調査中のためと情報を出さないなかで、考えられる原因と背後要因を出し合いながら議論をつくり出してきた。それは、パートナー会社・協力会社の事故で終わらすことなく、当事者意識を持ち組織事故の観点と何よりも仲間の命を奪ってはならないという危機感からである。JR東日本発足以降、私たちは事故によって191名の仲間の尊い命を失った。これ以上、安全レベルの低下を生み出してはならない。「原因究明委員会」を通じて、職場から届いた多くの疑問点を払拭し、背後要因を確定することで事故から学び、真の対策を打ち出していく。

工務職場では『命』に係わる事故が未だ後を絶たない状況である。私たちは山手貨物線触車死亡事故を契機に、責任追及から原因究明へ安全な職場環境を追求してきたことを忘れてはいけない。しかし、今年に入り感電死亡事故の発生や、大規模輸送障害の発生により安全が脅かされている。安全に対し会社は掛け声だけになっていると言わざるを得ない。社員・パートナー会社への注意喚起や場当たり的な対策、現場の意見を無視した一斉点検などでは事故の連鎖は止まらない。工務職場は『命』を脅かす触車・感電・墜落のみならず、交通事故・熱中症など線路内外関係なく常に危険と隣り合わせである。今一度、現場の視点に立ち、安全を価値基軸に働ける環境を目指し、工務部会として出来ることを一歩一歩前進させていこうではないか。

会社は「安全は経営のトッププライオリティ」というものの、「安全」が根幹から揺らいでいると言わざるを得ない事態が多発している。6月16日には「内房線・上総湊～竹岡駅間で発生したパートナー会社社員の感電死亡事故」、7月24日には「大崎駅構内の信号装置故障」、7月29日には「尾久駅構内ケーブル火災」、8月5日には「東海道線大船駅構内の列車と電化柱の衝撃」などの事象が発生している。さらには「線路内拾得物の取扱い誤り」「線路内直前横断」で列車が非常停車するなど、組合員・社員の命にかかわる重大な問題も多発している。設備部門で働く組合員・社員はもとより、乗務員・車両メンテナンス・営業・かんり・きかく・医療部門で働く全ての系統や職場で安全を最優先にした体制が構築されているのか、振り返らなくてはならない。

発生した事象には必ず背後要因があり必然性がある。ビッグモーターで発生していることは決して他人事で済ませてはならない。要員の穴埋め的な転勤懲通、ミスに対して「次はないぞ」と精神的に追い詰めミスをすれば転勤、懲罰的日勤教育など責任追及では事故をなくすことはできない。

職場からのたたかいで安全議論を巻き起こし、「不安や危険と感じたら直ちに列車をとめる」「責任追及から原因究明へ」の安全文化と安全哲学の再確立に向けて奮闘しようではないか！

以上、決議する。

安全文化・安全哲学の再構築に向けてガンバロー！！

2023年 9月 2日
東日本旅客鉄道労働組合
工務部会
第35回定期委員会